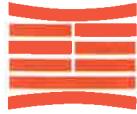


No.  
18  
2012

多摩美術大学校友会  
会報[アルティ]



alt



ともだちはチカラなり



Cover story  
1953年3月の卒業写真

学徒出陣、勤労動員によって学生がいなくなった多摩帝国美術学校は1944(昭和19)年12月に海軍によって接收、電波物理研究所に貸与され、軍事的な無線通信研究のために施設を提供しましたが、1945(昭和20)年5月25日未明の夜間大空襲によって圖案科棟を残し校舎は焼失してしまいました。8月15日に戦争が終結し、戦地から、疎開先から、少しずつ学生たちがもどってきて学校を再開してほしいという声があがってきました。そして溝の口の日本光学の旧軍需工場を借り受けて1947(昭和22)年多摩造形芸術専門学校として再出発したのです。学生数もだんだん増え、1953(昭和28)年3月には74名を送り出しました。左端が村田晴彦(主事・学生監、1961年多摩美術大学理事長就任)、中央部には左から渡辺素舟(学科教授)、井上忻治(学科教授、多摩造形芸術専門学校校長、1953年多摩美術大学学長就任)、杉浦非水(図案科教授、多摩造形芸術専門学校理事長)、逸見梅栄(学科教授、1954年多摩美術学園長就任)の各先生。逸見先生の斜め後ろには資生堂の広告で有名な山名文夫先生、など錚々たる顔ぶれです。ものはや戦時色は払拭され、おしゃれな背広姿も増え、みんな凜々しく社会に巣立っていました。

## 会長の挨拶



ことしの校友会  
坂井忠平('82建築)

東日本大震災から1年半。今も多難に直面しておられる方々には心よりお見舞い申し上げます。そして現地、あるいは各位の居場所において支援活動に取り組む卒業生がおられること、心より敬意を表します。「歌は世につれ世は歌につれ」人のここと世相はどの時代にも呼応しあうもの。停滞感・閉塞感が言われる今日ですが当校友会は今年も1千人を超える会員が仲間に加わりました。少子高齢化どこ吹く風、会は元気に成長を続け、やがて会員4万人を超える日がやってきます。昨年この欄で「校友会が生まれて16年」と書いたところ1950年代卒の大先輩から「卒業当時から校友会はある。オレはこれまで3回も会費を払った」とご注釈を頂戴しました。おっしゃる通りです。タマビのご縁でつながる

校友の会は母校の歴史そのもの。この春、1年分の行事ご案内としてメニュー booklet 「ことしの校友会」をすべての卒業生(といつても住所のわかる方に限りますが)にお送りしたところ「どうか、校友会はこんなことをしていたのか」といったご感想を多数お寄せいただきました。在校生に贈る奨学金や卒業生グループによる展覧会・発表会の資金を支援するプログラムのほか「小品展」「出前アート大学」などは、みなタマビ卒のともだちのチカラで支えられています。学生食堂を借り切っての同窓会(八王子キャンパス)をはじめ国内・海外各地の卒業生による展覧会ではそれぞれの活況を見せてています。こと校友会に関しては「友はタマビにつれ、友はチカラなり」を感じるこの頃です。

### 第18回定期総会のご報告

6月3日(日)、八王子キャンパスのレクチャーホールで第18回定期総会を行い、昨年度の活動報告とともに今年度の事業計画についてご承認をいただきました。今年度の事業計画は、昨年度の定期総会において校友会の基盤整備に取り組む上で掲げた2つの方針、〈会員ネットワークを広げる〉、〈基金・予算の使途を示す〉に沿って、計画いたしました。昨年度の決算報告および今年度の予算計画の詳細については、別紙をご覧ください。

- 1:「ホームカミングデー」の開催
- 2:会報「alt」の発行
- 3:チャリティ展覧会「小品展」の開催
- 4:会員グループ支援(企画助成)
- 5:支部活動支援
- 6:学生(準会員)に向けた支援
- 7:社会に向けて「出前アート大学」など

写真提供:本多八郎氏(52回卒業卒)  
撮影:多摩美術大学史編纂室

多摩美術大学校友会  
会員数:38,755人

## ホームカミングデー2012「イイオ de 同窓会」



6月3日(日)、八王子キャンパスにて「ホームカミングデー 2012」を三部構成で開催いたしました。第一部「スペシャル・トーク・イベント」と第二部「第18回定期総会」をレクチャーホールで、そして第三部を「イイオ de 同窓会」と題した懇親会を、イイオ食堂にて行いました。昔から変わらないカレーライスやラーメンといったメニューも登場し、卒業生の方々にも懐かしんで頂けたのではないかでしょうか? 新しい建物が増え、昔とは少し風景がかわった八王子キャンパスで楽しいひとときを過ごしました。



久しぶりの再会は楽たせましたでしょうか?



1. 今春定年退職された秦剛平先生。 2. 昔から変わらないイイオのカレーライスを味わいました。

3. イイオのラーメンは全ての種類をご用意いただきました。

4. たくさんの卒業生、学生に運営スタッフとしてご協力いただきました。

5. 校友会の活動をパネルにて紹介しました。 6. 先輩のしりあがり寿さんにサインをもらっています。

photo by bozzo

次回のホームカミングデーは、2013年6月に開催します。多くの卒業生が楽しく集える場を提供してまいります。ご要望などがありましたら、事務局までお知らせください。

### ご挨拶いただいた方々



校友会名誉会長で本学学長の五十嵐威暢様に乾杯のご発声を頂きました。



武蔵野美術大学校友会会長の中島信也様にご挨拶いただきました。



支部を代表して、愛媛支部支部長の遠藤貢治様よりご挨拶を頂きました。



イイオ食堂の丹羽弘明様に会の最後に卒業生へ向けてメッセージを頂きました。

## 支部支援について

### 校友会支部のあゆみ

校友会が設立されたのが1995年。その沿革は会HPにも紹介されていますが、会の設立に向けての胎動は意外にも母校から遠く離れた地域から始まりました。1991年に広島支部設立を先頭に佐賀・愛知・北海道・新潟・長野・福岡支部設立と続き、95年の校友会設立時にはすでに七つの地域に「校友会」が誕生していました。その後も国内での支部設立は止むことなく、近年は海外(ニューヨーク、台湾、韓国)支部が加わり、現在では国内外に24の支部を数えるまでになりました(上に紹介したほかに国内は北から東北、群馬、栃木、千葉、神奈川、静岡、滋賀、京都、和歌山、大阪、兵庫、愛媛、大分、鹿児島の諸支部)。校友会はこうして地方から会員ネットワークづくりが始まりました。

### 支部活動の今昔

地域の卒業生の寄り合う場としてどの支部もその活動は「自主」の精神で貫かれています。また運営も支部ごとの「独立採算」を前提として「懇親会(同窓会)」「展覧会」「アトリエ訪問」「スケッチ旅行」…と独自性・趣向を凝らした魅力ある活動を開催しています。しかしながらこうしたアクションをおこしているのはむしろ少数派。多くの支部はこれといった活動もなく時がすぎゆくままに…、といった状態が続いています。と言うよりは活発なアクションを展開する支部であっても草創期においてはそうした暗中模索の沈黙の時期が続いたものと想像されます。中には設立後、活動が日の目を見ることなく休止・廃部・消滅となった支部もありました。

した。今、校友会は地域の交流を深める上でまったく同じ心境に立たされている思いがします。6月2日に東京で行われた支部長懇談会は「校友会支部連携を考える」と題し17支部・会より19名が集まり、声を出し、討論を行いました。特定の結論には至りませんでしたがお互いの情報交換・意見発言の場として今後も懇談会を継承する方針を確認しました。



### 支部活動支援の今

こうした中、校友会では主として経済面において支部の活動支援強化を図っています。もとより校友会には「規則・内規」で定められた支部助成制度がありますが、より実際的な活動に資することができるよう従前の助成枠を拡大し、支部のニーズに応じた活動資金を提供できるよう現制度からの刷新をめざしています。一例を挙げると、一部門当たりの支給上限額緩和や支部会員への通信経費補助率の引き上げ。また毎年度の予算計画・決算といった支部ごとにまちまちな会計作業の時季を全支部同時期に協調することにより校友会予算を「共有化」する取り組みもはじめています。ちょっとわかりにくいかもしれません、要は支部活動も他の校友会活動もできるところは一緒のサイフでやろう、ということなのです。そして「制度刷新」に向けての準備を現場の代表者会議「支部長懇談会」のもとで現在進めています。

### 支部連携へ～支部長懇談会の役割

「集まりましょう。声を出しましょう。そこから何かが生まれるでしょう」。これは2007年に新潟「支部会報」創刊号の巻頭言において当時の支部長が在郷の卒業生に「縦横の交流と連携の輪をひろげる」ことを呼びかけた言葉です。支部設立(1994)から会報創刊まで長い歳月の「糸余曲折があった」末の第一声で



## 支部活動記録

### 神奈川支部 神奈川支部懇会

実施日：2012年5月13日(日)  
会場：神奈川県民サポートセンター  
**多摩美校友会神奈川支部展**  
会期：2012年8月28日(火)～9月9日(日)  
会場：FEI ART MUSEUM YOKOHAMA



### 群馬支部

第11回オープンキャンバスバスター  
実施日：2012年7月22日(日)  
JR高崎駅～八王子キャンパス



### ニューヨーク支部

Home Away From Home VIII  
会期：2012年6月15日(金)～30日(土)  
会場：Tenri Cultural Institute of New York Gallery



### 台湾支部 第二次聚會

実施日：2012年5月6日(日)  
会場：賴純純工作室(台湾)  
**第三次聚會**  
会期：2012年9月1日(土)  
会場：張子隆退官展会場・大趨勢畫廊(台湾)



### 千葉支部 第15回千葉多摩美会展

会期：2012年6月12日(火)～17日(日)  
会場：千葉県立美術館 第4室



### 広島支部 2012TAMABI展

会期：2012年5月31日(木)～6月12日(火)  
会場：ぎゃらりい宮郷(宮島)



### 佐賀・大分・福岡支部

第8回九州地区多摩美術大学校友会展  
会期：2012年9月26日(水)～30日(日)  
会場：久留米市石橋美術館



### 新潟支部 第5回新潟多摩美展

会期：2012年6月23日(土)～7月1日(日)  
会場：新潟市美術館市民ギャラリー



### 多摩教育の会 総会・研修会

実施日：2012年8月6日(月)、7日(火)  
会場：本学八王子キャンパス



## 会員グループ支援(企画助成)について

意欲的に芸術活動に取り組んでいる卒業生を応援するプログラムとして、平成22年度よりスタートした助成制度です。応募資格は、校友会会員が5名以上所属する非営利団体です(代表の方は正会員に限ります)。助成の対象となるものは、広く社会に向けて「芸術文化の発展に寄与する」事業・企画で、展覧会、セミナー、講演会、ワークショップ、発表会、出版、映像、舞台など、会員の創作による発表活動が該当します。本年度は申請受付を6月に行い、審査の結果、8月に助成が決定しました。次回、来年度の募集の詳細は来春発表予定です。応募検討に際して不明な点などありましたら、校友会事務局までお気軽にご連絡ください。下記は今年度、制度をご利用いただいたグループの皆さまです。

## TAMUSIL

代表者：佐竹邦子('95 油画)  
多摩美術大学・武蔵野美術大学・シラバコーン大学  
によるリトグラフの表現  
TAMUSIL - Prints Exhibition 2012  
会期：2012年5月7日(月)～12日(土)  
会場：文房堂ギャラリー(神保町)  
助成額：90,000円



## ちゃかほい展 多摩美術大学寮友会

代表者：田中忠一('54 油画)  
第3回ちゃかほい展  
会期：2012年7月4日(水)～10日(火)  
会場：山脇ギャラリー(市ヶ谷)  
助成額：75,440円



## らふ・まん

代表者：霍見ふみや('11 映像演劇)  
デコトラ4tトラック公演  
「ないものねだりのろくでなし」  
会期：2012年12月1日(土)～2日(日)  
会場：駒沢オリンピック公園  
助成額：50,000円



## 校友会のホームページをご活用ください！

校友会のホームページでは、校友会会員(卒業生・教職員)、準会員(学生)の展覧会・イベント情報を掲載しています。また、「リンク集」には、会員個人ホームページのURLを記載しています。掲載は、随時募集しておりますので、ご希望の方は校友会事務局までご連絡ください。また、住所の変更もホームページより変更が可能です。是非、校友会ホームページをご活用ください。

卒業生の情報をお待ちしております！



多摩美術大学校友会ホームページ  
<http://www.tamabi.ac.jp/alt>

## 個人情報の変更

個人情報の変更是こちらから行うことができます。フォームに入力するだけで住所変更の手続きができます。お引越しなどで住所が変更になった際は、是非校友会までお知らせください。

## 展覧会・イベント情報の募集

展覧会、イベント、出版、受賞などの情報掲載は、こちらから行うことができます。フォームに必要事項をご入力ください。画像の添付も可能です。

\*パソコンを使用されない方、ホームページをご覧になれない方：  
<個人情報の変更><展覧会・イベント情報>は、ハガキ、電話、Eメールでも受け付けております。  
<展覧会・イベント情報>は、DM1枚を校友会事務局にご送付いただければ、画像と文字情報をホームページ上に掲載します。必要事項を明記のうえ、お知らせください。



## 校友会奨学金制度

校友会には二つの奨学金制度があります。私費留学生が対象で研究室の推薦制(輪番制)による「校友会私費留学生」と、全学生が対象で企画書と応募計画書による応募形式の「校友会奨学生」です。

例年6月頃募集要項を発表しますので、在学生の皆さま、是非ご応募ください。

## ●平成24年度校友会奨学生 応募数

計63名(美術学部29名、造形表現学部14名、大学院20名)

## ●平成24年度校友会奨学生 選考委員会

武田州左(日本画) 野田裕示(油画) 天野純治(版画)  
村井進吾(彫刻) 小林光男(工芸) 田中秀樹(PD)  
柏木 弘(TD) 田淵 謙(環D) 末房志野(GD)  
矢野英樹(情D) 海老塚耕一(芸術) 武正秀治(D)  
松下宣廉(造形) ほしのあきら(映像演劇)

来年4月に平成24年度校友会奨学生による成果報告の発表・展示を予定しています。過去の成果報告書などの資料は校友会事務局にて閲覧できますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

## 平成24年度校友会私費留学奨学生

CHOI Eun Ji 韓国 美術学部絵画学科版画専攻3年  
KIM Kiwon 韓国 美術学部工芸学科金属プログラム4年  
KIM Soo Hee 韓国 美術学部環境デザイン学科4年  
KIM Jung Un 韓国 美術学部情報デザイン学科  
メディア芸術コース4年  
CHOI Jung Yi 韓国 美術学部芸術学科3年



## 平成24年度校友会奨学生

シム ヘイン  
沈 海仁 美術学部生産デザイン学科PD専攻3年  
平山みな美 造形表現学部デザイン学科DCコース4年  
柏 大輔 大学院美術研究科博士前期課程 GD1年  
世良由利子 美術学部工芸学科 ガラスプログラム3年  
本田花菜 大学院美術研究科博士前期課程 彫刻2年



## ご報告「平成23年度校友会奨学生成果報告会」

会期：2012年4月2日(月)～7日(土)  
会場：八王子キャンパス/絵画東棟ギャラリー1階  
上野毛キャンパス/食育横回廊  
昨年度の校友会奨学生5名による成績報告会を開催しました。



## 第15回チャリティ展覧会

## 「多摩美術大学校友会小品展2012」・チャレンジ賞

校友会では、作品販売を目的とした展覧会を毎年12月に開催しています。本年は昨年に引き続き、奨学金基金、ならびにアートの分野における東日本大震災義援金の寄付を目的に実施することになりました。また、2009年度より始まった若手クリエーターの発表を支援する活動、「チャレンジ賞」を今年も行います。この賞では、個展開催時のDM印刷および郵送費用として5万円を授与し、校友会ホームページでの広報、さらに事務局より卒業生(100名程度)にDMを発送いたします。来場者の投票結果をもとに賞が選考されますので、ぜひご来場いただき、チャレンジ賞への投票をお願いいたします。今年の小品展は、12月2日(日)～12月8日(土)文房堂ギャラリー(神保町)にて開催いたします。

## 「小品展2011のご報告」

出品者219名。来場者約600名。作品点数299点中、124点の作品が販売され、売上金は1,263,911円となりました。この売上金を、作家画料50%、奨学金基金25%、「東日本大震災芸術・文化による復興支援ファンド(GBファンド)」(公益社団法人企業メセナ協議会)への支援金25%と使わせていただきました。またチャレンジ賞では、応募者26名中、下記6名が受賞しました。



林紀公子('96油)



宮井麻奈('01版画)



青木恵('06油)



島崎りか ('07油)



堀越達人 ('08造形)



荒木愛('10油)



昨年度の展覧会場の様子

## しりあがり寿×ザリガニワークス



今回の卒業生インタビューは2012年6月3日のホームカミングデーにて行われたスペシャル・トーク・イベント『コレジャナイ・ゆるゆる・存在論』(マンガ、デザイン、アートをタマビで語る)の攝影をお伝えいたします。

トークゲストはしりあがり寿さんと有限会社ザリガニワークスの武笠太郎さん、坂本薦穂さんです。校友会理事で銀座のギャラリーQ主宰の上田雄三さんによる司会進行のもと、漫画界やデザイン界での三人の活動のご紹介や、多摩美にまつわるお話、アートやデザインを介した社会との関わり方など、既に様々な形で活躍されている卒業生と、これから社会に出る学生たちと語り合いました。

◀左から坂本薦穂さん、武笠太郎さん、しりあがり寿さん、上田雄三さん

## 『これが本当に多摩美なの?』

しりあがり● こんにちは。しりあがり寿です。どうも何か本当、久しぶりに多摩美へ来て、さっきうろうろしていたら、もしかしてこれは多摩美じゃないかと、俺はだまされているんじゃないかなと(笑)。そういう橋本駅に着いたときから全然変わっちゃって、鶴そば屋もないし、何か悪い予感はしていたんですけど、本当はここどこなんですかね。というような感じで、始めさせていただきたいと思いますが、ゆるゆるということで今日、お誘いいただいたんですけども、こちらに見ていただいているのが僕のゆるゆるのルーツです。これは何かというと、今から30年以上前、多摩美の漫研に僕がいたときの、僕が編集をして、祖父江慎というブックデザイナーが表紙をしていたときの同人誌、これがその編集後記なんですけれども、何が書いてあるかというと、「漫畫は何にこだわっているというのだ。語りにくされたことを絵解きするだけが漫畫じゃあるまいし、たかが作者のイメージじゃないか」、言ってみれば人が人の想像の範囲で物を作ることの限界を破ろうと。つまり建築家が設計図通りに物を作る、漫画家が絵コンテ通りに漫畫を作る、人がその意図通りに何かを作ることはもうまらないんじゃないかと。人の創造のできる範囲内というのはもう何千年も人は物を作っていてたかが知れているし、そうでないところに頼って何かを作りたいと、いわば創作の偶発性ですね、それをもう少し創作の中に取り入れていこうじゃないかという宣言だと、かっこよく言えばそういうことを言っているわけですね。例で出ているのが、泣かせようと思って頑張って描いた少女漫畫が、下手くそで笑えてしまうとか、あるいは怖がらせようと思って一生懸命描いたホラー漫畫が、下手くそすぎて笑えてしまうとか、そういう作者の意図と外れたところにある何



ということで、ぼくらは、有限会社ザリガニワークスというのを2004年の4月に立ち上げまして、2人で今、会社としてやっています。どういうのを作っているかといいますと、「コレジャナイロボ」って、ご存じの方いらっしゃいますか。これはどういうロボットかとちょっと説明させていただきますと、「欲しかったのはこれじゃない、プレゼントを開けた子供から発せられる悲痛の叫び。楽しいはずのクリスマスが突如修羅場に。こんな経験ありますか。できれば避けたいものです。しかし人生、欲しいものが何のリスクなしに手に入るなんて話はそうはありません。欲しいもの



しりあがり寿(しりあがり ことぶき) 1955年静岡生まれ／1981年多摩美術大学デザイン科GD専攻卒業／1981年製鉄製造株式会社に入社／2000年「時事おやじ2000」「ゆるゆるオヤジ」により第46回文部省春秋漫畫賞を受賞／2001年「赤兎多郎DEEP(エンターフレイン)」で第5回季刊虫文庫大賞「マンガ優秀賞」を受賞／2002年4月1日鶴見新聞2刊にて4コマ漫畫「地獄防衛軍のヒトヒト」を連載開始／2002年「流星譲房」が庵野秀明によりショートヒート化／2005年「隕石群多郎」が「深澤昌久郎」により映画化／2011年3月11日以降の作品を1冊にまとめた『あの日のマンガ』が文化庁メディア芸術祭マンガ部門で優秀賞を受賞 公式サイト (<http://www.saruhage.com/>)

手を入れるために努力も必要だということを何らかの機会に知っておくのもよいでしょう。コレジャナイロボは、その絶妙な偽物感、かっこ悪さにより、そのことをお子様にトラウマ級の効果を持ってお伝えすることでしょう。情操教育玩具として、ぜひお試しください』。こういう商品です。

子供をがっかりさせるという目的に対して正しくアプローチされているということで、グッドデザイン賞もいただいています(笑)。奇しくも同じ多摩美の卒業生である佐藤可士和さんとか佐藤卓さんがいらっしゃった審査ユニットで、佐藤可士和さんが「私の選んだ1品」という審査員特別賞みたいなのを付けていただいて、それで受賞に至ったという形で、コレジャナイロボの背中を見るとGマークが付いているという何ともやもやする状態になっています(笑)。

コレジャナイロボは自分たちで手作りして出荷販売していますが、本来はいわゆるライセンスビジネス、キャラクターの版権だとか企画の権利をメーカーさんにお貸ししてロイヤリティをいただくというやり方をメインとしてやっています。

これがわりと最近の企画で、「土下座ストラップ」というガチャガチャの商品企画ですね。これはガチャガチャメーカーさんに企画を持ち込んで実現したもので、現在、シリーズ累計で150万個ぐらい売っています。みんな疲れているんですかね(笑)。サラリーマンたちが土下座しているという哀愁あふれるフィギュアストラップです。これを携帯電話に付けるわけですね。例えば営業の人がお客様のところに行ったり、携帯を机に置いて、この土下座ストラップをお客様の方に向けて商談していれば、多少横柄な態度を取っていても、サブリミナル効果でちょっと腰の低い方だったなという印象が残るかもしれません。一応これは「シリーズ生きる」というシリーズ名を付けているんですね。土下座から始まって、いろいろなポーズをやりたかったんですけど、土下座のヒットで、土下座のシリーズがどんどん増えていったんですけど、この間の4月からやっと次のポーズに入れまして、それが「体育座りストラップ」です。かなり真剣な会議で決まりましたよね、次に何でいくかというのは。

## 『体育座り?』

坂本● そうそう。社長とか部長の体育座りに平社員の土下座とかを合わせるのが結構面白いんだよね。あんまりちょっと、しりあがりさんみたいに哲學的なテーマとかは提案できなかったですが。僕らの方がたぶん知られてなさはすごいと思うので、自己紹介的にはよかったです(笑)。

司会● いえ、見ていて笑えるデザインってあんまりないと思うんですね。かっこいいデザインはいっぱいあると思うんだけども、2人に共通しているゆるキャラと、一つの無気力フレーズというか、両方ともちょっと緩い感じがして、そこが見る側がすき間に入っていくというか、それが面白いなと思いますね。今、哲学的じゃないとおっしゃったんですけど、非常にコレジャナイというのは哲学的だと僕は思いました。逆にこれですかといったときに、否定されていくわけですから、あれでもない、これでもないと、最後までこれじゃないわけですね。何かそこに自分たちが見えない、もう一つのフレームから例えればカメラでのぞいたときに、写らない世界があるわけです。その写らない部分というのがこれじゃないわけで、そこを考えさせると、いうのはやっぱりすごいアイデアだと。非常に今までにない逆説的な、皮肉ったような、ちょっとへそ曲がり的なところがすごく面白いなと思いました。しりあがりさんのこの本は「第15回文化庁メディア芸術祭マンガ

部門」で『あの日のマンガ』が優秀賞を受賞しているわけですけれども、この漫画も僕は読ませていただいて、もう本当に短時間で電車の中でも見られちゃうと。4コマ漫画とつなぎながら、非常に最後にどきっとさせるという。しりあがりさんがこれを書いたいきさつとか、やはり3.11以降のテーマとしておりますので、ちょっとその辺をご紹介していただけたらと思いますけど、どうでしょうか。



## 『「あの日のマンガ」が優秀賞を受賞』

しりあがり● 去年出た本なんですけれども、例の地震が起きたときに、ちょうど僕は朝日新聞で4コマ漫画を描いていて、それが『地球防衛家のヒトビト』という時事漫画なんですね。要するに地球を守りたいけど日々何もしないという『地球防衛家のヒトビト』、その連載漫画をやっていて、あの地震を描かないわけにはいかない。別に描きたいわけではないんだけど、描かなかつたら不自然ですよね。日々あんなことが起こっているのにそれを漫画にしないわけにはいかないということで、言ってみればこんな連載をやっているんだからしょうがないみたいに、いつも無いことをやっているけど、ちょっとそれどころじゃないみたいな感じで、一連のあれを描いたんですね。それを6月くらいですかね、何かもうどんどん雰囲気が変わってくるというんですかね。切羽詰まっていた危機感みたいなものがだんだん薄らいできたりもしたので、なるべく早くまとめた方がいいだろうということで、いろいろなところ、いろいろなメディアにあの震災をテーマにしたものを作っていましたけれども、それを一つにまとめて掲載順に並べるみたいな編集の仕方で、去年の7月末に出したのがその本です。

## 『多摩美に入った理由』

司会● 今回は多摩美という場所でトークをやっているんですが、多摩美に入ったきっかけというか、学生のとき、高校生になると思いますけど、何で多摩美に入ったのか、何か理由みたいなのがあったんでしょうかね。どうでしょ、しりあがりさん。

しりあがり● 僕ですか。僕は何でだったかな。現役のときは芸大を受けて落ちちゃったんですね。それで2年目は全部受けて、全部といつても三つですけど、武蔵美と多摩美に受かったのかな。それで多摩美が映像が強いと言われて多摩美に入ったんですよ。そうしたら何でいうことはない、オープンリールのビデオが1台あるだけで、カメラも1台しかないし、これはだまされたなと思っていたけどね。

武笠● 僕は中学生のときに、図画工作だけしていれば大丈夫な大学があるという美大の存在を知りまして、美大予備校に高校一年生から通い始めて。その当時多摩美のグラフィックが一番自由な入試の内容だったんですね。僕が入った年は、「6角形の中に自分の世界を表現しなさい」というすごくあいまいな試験で、その前も何か日本を表現しなさいとかいう課題だったので、予備校という狭い場所でやっている自分にとって、すごく自由を感じさせてくれる課題で、だから多摩美のグラフィックデザインを行ったら楽しいのだろうなと思ってやっていましたね。

坂本● 僕もやっぱり中学くらいにはもう美大に行こうと思っていてですね。

## 出前アート大学

兄がいて、兄は桑沢デザインだったんですけど、やっぱり服飾をやっていて、何かデザインというものをすごく身近に感じていて、グラフィックデザインでも何でもやりたかったので、一番メディアに近い関係にあるデザインの世界というのはグラフィックなのかなという印象で。それで変な話、そこで一旗上げればメディアをまたいでいろいろやらせてもらえるかなと思ってグラフィックと思ったんですよね。それで、2浪しているんですけど、受験を重ねるごとにだんだんちょっと多摩美に焦点が合っていったというか、あ、ここに行きたいとなって入った次第ですね。結局、多摩美しか受からなかったのもありますけど。

### 『食う食わないはあんまり関係なく気楽にやっていました』

**司会**あとお三方を見ていると、しりあがりさんはキリンビールの会社に勤めていたし、武笠さんは玩具メーカーにいて、坂本さんは大手ゲームメーカーに就職されて、1回就職されているわけですよね。そこで辞めた理由、せっかく今、就職難で、辞めちゃもったいないじゃないかとご両親から言わされたかもしれないし、何かそれに抵抗して、自由を求めてまた旅に出ようかみたいなところがあったかもしれません。なぜそんな一流企業を辞めて、ビールメーカーを辞めてこういう漫画家に走ったのか。

**しりあがり**●当然いろいろとあってサラリーマンをやっていたんですけど、ずっと宣伝部で楽しかったんですよ、仕事。だけどそろそろ36歳となると、管理職になってから逃げるって、管理職になると部下がいるじゃないですか。部下をしかれないんですよね。何かで恨まれたりとか。というか、何かその人の人生を左右するような、何か嫌なんですよね。それでこれはちょっとまずいなと思って、組織はちょっとどうかなと思って辞めましたけどね。まあ、最初はサラリーマンだったので、食う食ないはあんまり関係なく気楽にやっていましたけど。僕は、苦労するのはおそらくこれからだと思います。キリンを辞めるときは二足のわらじで、漫画の仕事もすでにしていましたし、そういう意味では辞めたときはあんまり苦労はなかったんですけど、やっぱりこれから先、非常にいろいろなものの変化が激しい、速いときにどう生き残っていくか、どういう苦労をするのかということすらよく分からなければ、そういう意味では不安を感じていますね。

**武笠**●苦労を感じたことはなかったですね。会社を立ち上げてすぐはもちろん大きな仕事もなくて、赤字も続き、給料が少なかつたり、出ない月が

ざらにあったんですけど、それはでもただ金がないというだけで、苦労とは思わなかったですね。やっぱりそれ以上に好きなことをしているとか、自分たちが考えた企画がいろいろな可能性を持っている。会社を立ち上げたことでいろいろな可能性が持てるということになったんですけど、今までおもちゃ会社から出るか出ないかというだけの話しか会社の中ではできなかったんですけど、ザリガニワークスを立ち上げたことで、坂本とつくったアイデアがおもちゃじゃなくても、じゃあ、違うところへ持っていくとか、いろいろなところつながるようになったのです。すごくそれが楽しくてずっとやっていたので、僕も苦労はこれからかもしれないですね。コンセプトの持っているエンターテイメント性に全力でそれをぶつけていくというか、向けていくというのが、すごく意識としてありますね。

### 『そこに夢や希望をどう込めようかというのが本当はクリエーターのやりたいこと』

**学生**お話をありがとうございました。私がお聞きしたいのは、いろいろな作家さんが卒業されてから活動していると思うんですけども、やっぱりお三方は自己プロデュース力がすごく高いのかなと思っていた、企業が拾ってくれる自己プロデュースのコツみたいなのがありましたら教えてください。

**しりあがり**●自分がそういうものがちゃんとできているとも思えないんですけど、強いて言うと夢とか希望とか愛とか思わないことじゃないですかね(笑)。できるだけ合理的に考えるというか、例えば自分だったら、描けないものは描けないんだから、じゃあ、描けない自分をどうしたらいいとかね。まあ、それは努力はしなきゃいけないにしろ、必要な努力は何かとか。ねえ、頑張ってもできないことはあるし、だったらじゃあ、何にしようかみたいな、できるだけ物事をちゃんと合理的に考えていった方がいいような感じがしますね。すみません(笑)。

**武笠**●好きなことをとにかくやり続けるというのはひとつあると思うんですけど、企業が拾ってくれるという意味で効果があったなと思うのは、新聞に載ること、会社の偉い人の孫が知っている、ということは結構大事ですね。あとグッドデザイン賞もかなり効果がありました。

**坂本**●ちょっと何となく殺伐とした回答が出ているんですけど、でも正直それは事実であったりして、ちょっと何か分かりやすい話はないかなって。僕、分かりやすい話がすごく苦手なんですよ。それでよく武笠がしゃべっているんですけど、ちょっと思うのは、ヒーロー番組とか子供向けのアニメを見ていて、あれって別に感動する話じゃなくていいんですよ、メーカーにしてみれば。おもちゃが売れればよくて。それを知ってもらって、欲しいと思ってもらうための番組になってしまえば、別に全然泣けなくてもいいのが会社なんですね。物というのはそういうふうに生まれてきて、これを売らなきゃいけない。こういう技術があるとか、こういう金型があるとか、そういう事情にどういう必然性を考えて販売するかという方がメーカーの仕事だったりするわけで、そこがかなえば本当にそれこそ夢や希望なんか全然いらないんですね。それが会社の都合だというのをクリエーターとして理解した上で、じゃあ、そこに夢や希望をどう込めようかというのが本当はクリエーターのやりたいことで、その二つを両立させる頭をすごく使うというか、夢や希望のために何ということを言いつぶやくとそこでメーカーに言わないというか。その都合はかなえますが、ここで夢や希望があった方がみんながうれしいですよと言えるというコミュニケーションの力というか、そういうところが大事かなと思いますね。

出前アート大学では、日本全国の小学校へ、卒業後社会で活躍する卒業生のクリエイターと共に美術・デザインの授業を出前しています(スタッフは全て卒業生・在学生です)。これからも、多摩美校友会ならではの特性を活かして、社会に貢献したいと考えています。授業 No.039~042までをご報告いたします。

photo by bozzo



#### No.039「しんぶんかいじゅう」

2011年11月24日(木) 神奈川県藤沢市立善行小学校  
講師=関口光太郎(造形作家／'06彫刻)



「こんなかいじゅうがいたらいいな」というテーマで児童27名がそれぞれ描いた絵を1匹の絵にし、それをもとに『善行ドラゴン』を作りました。大量の新聞紙を使うことでの過剰性をキーワードとする講師の世界観に触れて、絵が立体になることで夢の実現を体験しました。



#### No.040「みんなで文字文字しちゃおう」

2012年2月7日(火) 神奈川県横浜市立鶴志田第一小学校  
講師=大日本タイポ組合



自分たちのカラダと身近なモノを組み合わせて、影絵でオリジナル五十音表「かもいちかな」をつくりました。文字のかたちを観察したり、友達がつくった文字が何か想像したりしながら、文字をつくりだすことを楽しみました。



#### No.041「五重奏を描こう」

2012年3月9日(金) 埼玉県坂戸市立南小学校  
講師=植原亮輔(ギギ・アートディレクター／'97染織)、渡邊良重(ギギ・アートディレクター)、阿部海太郎(作曲家)



五重奏の5つの楽器のパートを聴き、音のイメージを5種類の紙に描きました。音がもたらすイメージの広がりと、一つひとつのイメージがすべて合わさることで生まれる表現の魅力を「視覚」と「聴覚」を往復する製作から体感しました。



#### No.042「ぼくらの巣をつくろう！」

2012年8月9日(木) 和歌山県紀美野町立小川小学校  
講師=近藤晃子(美術作家／'12情D)



居心地の良い場所=「巣」をテーマに、ボタンのついたコムひもを教室に張りめぐらし、紀美野町崖のシロヤ布をボタンにひっかけ、大きな巣をつくりました。家族や住人も参加した共同製作や展示を通して、地域や人のつながりを感じました。



でまえ  
あーと  
だいがく

多摩美術大学松友会 出前アート大学

今後の予定 2012年10月18日(木)に東京都武蔵野市立境南小学校、2013年2月15日(金)に東京都港区立御田小学校、3月5日(火)に埼玉県川越市立福原小学校での授業を予定しています。授業の進捗状況を随時、出前アート大学ホームページのブログにてご紹介しております。

また、出前アート大学ではボランティアスタッフを募集中です! ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

ホームページ [http://www.tamabi.ac.jp/alt/demaeart\\_site/top.htm](http://www.tamabi.ac.jp/alt/demaeart_site/top.htm)



# 事務局からのお知らせ

## 叙勲・受賞

2012年春の褒章にて、写真家の宮本隆司さん('73GD)が紫綬褒章を受賞されました。

## 定年退職された先生方

2012年3月31日付けで下記の先生方は退職されました。

長い間、本当にありがとうございました。

森野眞弓教授＝版画 清水行雄教授('67GD)＝グラフィックデザイン

森下清子教授＝環境デザイン 秦剛平教授＝共通教育

## 正会員カードの提示で大学施設をスムーズにご利用いただけます！

正会員の皆さまへ大学へ気軽に足を運んでいただき、卒業後も多摩美との結びつきを強くしていただければと、校友会正会員の証明となるカードの発行を2007年より始めました。現在発行枚数は約6,700枚になりました。このカードをご提示いただくと、学内および提携している施設でご利用いただけます。最新の特典情報はホームページをご覧ください。



### 大学附屬図書館の利用

正会員カードの提示で、八王子・上野毛校舎の図書館をご利用出来ます。図書館に所蔵されている図書・雑誌の館内閲覧などができる。詳細は図書館のHPをご参照ください。



### 多摩美術大学美術館

入館の際に正会員カードを提示されると入館料無料となります。また販売しているカタログなどの書籍も特別割引にて提供いたします。



左:「富士山麓セミナーハウス(純林苑)」 右:「奈良古美術セミナーハウス(飛鳥寮)」

## 会費の納入をお願いいたします！

校友会では、会報の発行、卒業生データベース管理、展覧会の開催、奨学金、支部への助成、学生への助成、出前アート大学などの社会貢献活動を行っています。これらの活動は全て、会員の会費によって運営されています。今後も会員、学生および社会に向けて貢献できる事業を展開していくことを考えています。ぜひ、校友会の主旨をご理解いただき、会費納入にご協力をお願いいたします。

## 会費の納入方法はこちらです！

- ①毎年、会費の未納・分納の会員には、会報の発送に「郵便振替用紙」を同封させていただいております。お近くの郵便局でお支払いいただけます（手数料は校友会負担）。また、用紙が必要な場合は、事務局よりお送りしますのでご連絡ください。
- ②事務局にて直接、現金でのお支払いも承っております。その際は事前に事務局までご連絡をお願いいたします。
- ③終身会費は30,000円です。10,000円×3回の分納も可能です。

## ご逝去された方々

謹んでご冥福をお祈りいたします。

有馬志保 ('95染織)	須藤康花 ('05版画)
飯塚まり子 ('99油画)	関康江 ('04PD)
市川まみ ('86油画)	大洞章子 ('66油画)
伊東徳治 ('62国画)	田口清 ('64国画)
伊原吉春 ('61国画)	土屋健 ('84絵画)
碓井卓 ('00二日)	永井宏 ('73写真)
江口隆一 ('75油画)	中川茂樹 ('66国画)
遠藤浩志 ('58国立)	西村直哉 ('85PD)
大倉友光 ('61写真)	橋本昇 ('39图案)
尾形次雄 ('54图案)	平出重治 ('82絵画)
奥田紘 ('63油画)	布野英二郎 ('71ID)
男全伸子 ('80GD)	曲澤一郎 ('43图案)
亀谷三良 ('59油画)	三瓶武彦 ('55图案)
衣川哲郎 ('64写真)	村岡功啓 ('60油画)
木村隆 ('54油画)	森泰正 ('89PD)
国松勝子 ('68油画)	山城哲博 ('71GD)
小島荘平 ('64彫刻)	横内英志郎 ('97ニテ)
小森喜紹 ('74油画)	米山進也 ('60国画)
斎藤梅 ('58油画)	渡邊貞彌 ('64油画)

敬称略・2011年10月～2012年9月  
お知らせのあった方の掲載(五十音順)

## 正会員カード特典先を募集中！

正会員カードにご提供いただける特典を募集しております。

現在、美術館、ギャラリー、画材専門店等合わせて約30個の施設にご協力いただいております。会員達が社会の多方面で活躍する場に、是非ご協力・ご賛同いただければ幸いです。

## 卒業生もセミナーハウスのご利用が可能です！

卒業生とそのご家族が利用ができます。宿泊希望の方は、校友会事務局にお電話で予約日程をご確認いただき、ご利用の1ヶ月前から、1週間前までに事務局で申込み、支払い手続きをしてください。

## 名簿リスト・宛名シール提供について

校友会では2002年以降、名簿の発行をおこなっていませんが、同窓会、グループ展など有志活動の際は名簿リスト、宛名シールを無料にて提供しております(個人情報保護方針に定める方法により、個人的な使用目的には対応していません)。なお、外部業者によって「多摩美術大学同窓会名鑑」などのタイトルで名簿が販売されることがあります。校友会とは一切関係ありませんので、ご注意ください。

## 校友会事務局へのお問い合わせ先

〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34

Tel : 03-5758-7738 Fax : 03-5758-7739 E-mail : alt@tamabi.ac.jp

ホームページ <http://www.tamabi.ac.jp/alt>

編集後記 今年の春に校友会事務局ではメンバーチェンジがあり新しいアドバイザーをききました。日々、多くの先輩方よりお力を得て様々な活動をしています。まだまだ校友会の存在を知らない卒業生、学生の方々も多数いらっしゃるので、もっと校友会をご利用いただけるよう励んでまいりたいと思います。